

# マルトミです



日頃のご愛顧に 心より御礼申し上げます。

## お知らせ

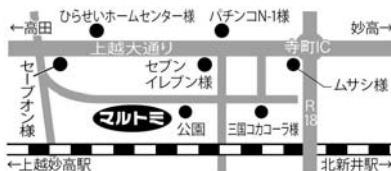
- ☆ 7月になってもそれほど気温が上がらず比較的過ごしやすい日が多かったのですが、ようやく全国的に梅雨も明けてこれから暑い夏がやって来そうです。  
特に外で作業される際など、くれぐれも熱中症にお気をつけてお過ごしください。
- ☆ ショールームでは、8月中は草刈機・芝刈機を中心に展示し、9月からは一足早い除雪機展示も行っています。10月には除雪機を中心の商談会も開催致しますが、現在もお得な除雪機御予約セールを継続実施中で、また程度の良い中古機もございますので、この冬は除雪機をとお考えの皆様はぜひお早めにご相談ください。
- ☆ 8月は夏期休業として11日～15日を休業させて頂きます。その間、お急ぎの御用がございましたら090-4709-7489(富取)までご連絡ください。その後、8月22日から9月末までは日曜・祝日も休まず営業致しますので、どうかご利用をお願い致します。

マルトミカレンダー (8月～10月) 赤色は休業日

8月							9月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3							1
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
28	29	30	31	25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29				
										30	31									

※ 11～15 夏期休業

※ 15・16 展示会



株式会社 マルトミ

上越市西田中236-9(企業団地内)

TEL(025)524-1181 FAX(025)524-1184

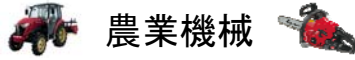
E-mail: [info@maru-takada.com](mailto:info@maru-takada.com)

ホームページ [www.maru-takada.com](http://www.maru-takada.com) 「上越 マルトミ」で

県認定農業機械整備工場(大) ・ ヤンマー農業機械整備士工場 ・ ホンダ ベスト特約店

## 当社の主要商品のご紹介と 今月のおススメ

マルトミは、各種機械の販売と修理を主な業務としています。創業が大正4年で、昨年100周年を迎えました。どうかこれからもお引立てのほどよろしくお願い申し上げます。



### 農業機械

大型機械から家庭菜園用ミニ耕うん機まで、信頼の一流ブランドの商品を取り扱っています。



ショールームでは8月いっぱいまで刈払機・芝刈機・あぜ草刈機など草刈り関係の機械を多数展示し、特別セールを行っております。(9月からは除雪機中心の展示となります。)



### 除雪機

ホンダとヤンマーブランドを中心に、家庭用からプロ用大型機まで幅広く取り扱っています。

現在、この時期ならではの御買得中古品が10点ほどあり、ホームページでも掲載中です。もちろん実物もご覧になれますので、ぜひおでかけください。中古機一例→  
(1点ものですので売切れの際はお許しください)



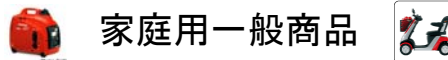
ホンダ 電動シュータータイプ  
HS760JS 18万円



ホンダ ハイリフト機  
HSM980iJN 28万円



ホンダ ハイリフト機  
HSM1390iJR 42万円

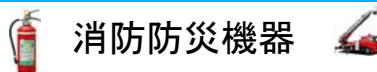


### 家庭用一般商品

循環温浴器・整水器・薪ストーブ・物置等々、信頼できるメーカーの品を多数扱っています。



3月より24時間風呂「おふろだもん」の実演展示を行っております。ご購入いただいた皆様の評判も上々で、人気商品となっております。ただいま1週間無料体験キャンペーンも実施中です。



### 消防防災機器

家庭用消火器から救助用の大型はしご車まで、消防・防災に関わる業務を行っております。



ショールームでは避難袋や折りたためるヘルメットなど、お役立ち防災グッズを各種展示しています。送料無料でお取寄せができる総合カタログもさしあげておりますのでどうかご利用願います。

### 機械の点検・修理もおまかせ下さい。

当社は、県認定農業機械整備工場・ヤンマー農業機械整備士工場・ホンダ汎用機ベスト特約店として、**点検・整備・緊急の出張修理**等、全てにわたり**迅速・確実・低料金**にて承っております。刈払機などの小型の機械から除雪機、大型農業機械まで、どうかご利用をお願い致します。



## 6月に恒例の御客様感謝祭を開催しました。

6月11、12日に開催した当社の感謝祭に今年も大勢の御客様がご来場下さり、誠に有難うございました。季節がら、あぜ草刈機や刈払機など草芝関係の機械の売上が好調だったほか、24時間風呂「おふろだもん」にも関心が集まりました。恒例となっている包丁研ぎとクワの修理コーナーや笹寿司・山野草・メダカなどの販売、野菜教室なども人気で、毎回楽しみにされているとのお声をたくさんいただきました。次回もどうかよろしくお願い致します。



## アクア・テラリウムにチョウセンブナが !!

ショールームの水槽を久しぶりに大掃除してレイアウトも少し変えました。身近な水辺の景色をお楽しみいただきたいと思いますと思いこの展示を始めてから早い



もので13年が経ちました。水槽をセットした当初からいるドジョウをはじめとして、メダカ、タナゴ、イモリ、スジエビ、タニシ、カラスガイなどのおなじみの住人たちに、最近 知る人ぞ知るチョウセンブナが新たに加わり、本当に昔懐かしい風景になりました。こちらにおいでの際にはぜひご覧ください。



## お客様訪問

### 妙高市 市川佐一郎さん

市川佐一郎さんは妙高市上百々にお住いで、現役時代は新井農協の職員として定年までご活躍されました。現在は奥様の美代子さんとお二人で家業の農業に専念されています。農協では農産物の販売に関わるお仕事を長く担当されていて、後に全国一のブランドとなるコシヒカリが現れる前、上越で100種類もの品種の米が作られていた頃からの知る貴重な存在でもあられます。そんな経験から作物にもこだわりをお持ちで、ミズホのエムリン農法をずっと実践されています。「作物は作るものではなく育てるもの」というお言葉にもとても重みがありました。昔から当社のお得意様で、農業機械の大小を問わず全て当社をご利用下さっています。今回お伺いすると玄関の壁に非常用の避難袋とヘルメットが仲良く2つつ並んでいて、日ごろからの防災への心がけとお二人のお人柄が感じられました。ついでに宣伝させて頂くと、これも当社からお買い上げいただいたものです。



佐一郎さんは82歳になられますがとてもお元気です。それでも、今は近くにおられる次男の方が手伝ってくれるので、あまり無理はしないよう心掛け、田んぼの草刈りも2時間までと決めておられるそうです。それが一番の健康法と笑っておられました。

佐一郎様、奥様、どうも有難うございました。



最後までやっぱり マイマイカブリ

このコーナーもお陰様で 100 回目を迎えました。きりの良いところで終了とさせていただきます。長い間私たちの駄文にお付き合いいただき、本当に有難うございました。

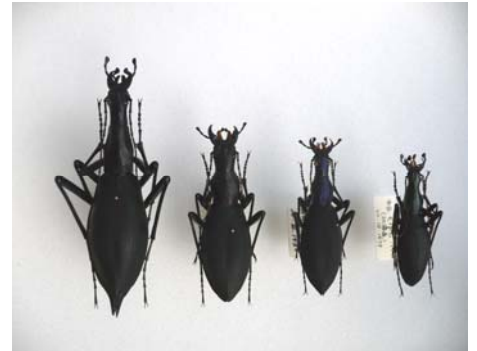
第 1 回のテーマはマイマイカブリでしたが、最後までそれで締めたいと思います。

マイマイカブリはカブトムシやクワガタムシと同じ甲虫の仲間、オサムシ科というグループに属しています。このなかまは美しい種類が多いこともあって世界的にも人気が高く、かつて昆虫少年だった漫画家の手塚治虫さんがその名前を自分のペンネームにしたことでも知られています。そんなオサムシ界にあって、マイマイカブリは、巨大で立派な姿からカブトムシ界のヘルクレスオオカブトのような王者的存在です。さらにこの種は世界で日本だけにしか住んでいません。まちがいなく、日本が世界に誇れる昆虫のひとつと言えるでしょう。

ただし、巨大で立派と書きましたが、実はすべてがそうというわけではありません。北海道から九州まで日本列島に広く分布していますが、地域によって全く別の種類に見えるほど姿を変えていて、その変身ぶりこそがマイマイカブリの大きな魅力なのです。王者の名にふさわしい全身真っ黒で長い足を持つ大型のタイプがいるのは九州や四国など南の地域で、それが例えば北海道に行くと、ずっと小型で足も短めの普通のオサムシに近い姿になり、頭胸部の色も緑色に変わっています。途中の本州でも地域ごとに姿を変え、その違いによってマイマイカブリは現在 8 つの亜種(種類の下分類単位)に分けられています。

私は、中学生の頃は蝶の収集をしていましたが、たまたまこの不思議な名前を持つ甲虫に興味を持ち調べて行くうちに、すんでいる場所によって形や大きさが劇的に変わり、色も、黒、青、赤、緑と様々に変化することを知り、ぜひ実物を見たいと思うようになりました。マイマイカブリを初めて採集したのは上越市滝寺の林の中でした。夜行性なので昼間探し歩いても見つからないことを知り、本で調べて、餌を入れた紙コップを昼間のうちにたくさん地面に埋めておき、一晩置いてから見に行きました。ワクワクしながら、でも内心入っているわけないと思いながら一つずつのぞいて行った何個目かのコップの底に、長い足が紫色、頭胸部が赤紫色に輝く宝石のような虫が動いていました。その光景は今もこの目に焼き付いています。私にとって幸せだったのは、上越地域にいるマイマイカブリが美しいコアオマイマイカブリ(亜種名)だったことでした。それにすっかり魅せられてしまい、一人で旅行できるようになるとマイマイカブリを探して各地を歩きました。九州で出会ったカッコいいホンマイマイカブリ、赤と緑のコントラストが美しい東北のキタマイマイカブリ、特異な形をした佐渡のサドマイマイカブリ、大潟区で見つかった上越にはいないはずのヒメマイマイカブリ…。振り返れば、その一つ一つの出会いに驚きと震えるほどの感動がありました。

別に研究者ではなく趣味の昆虫愛好家である私の場合、虫の価値は希少性や珍奇さよりも出会った時の感動の大きさに決まります。日本中にいてとくに珍しくもないマイマイカブリですが、私にとっては長きにわたる虫とのつきあいを導いてくれた恩人ならぬ恩虫なのです。(ミ)



左から ホンマイマイカブリ、サドマイマイカブリ、ヒメマイマイカブリ、エゾマイマイカブリ

